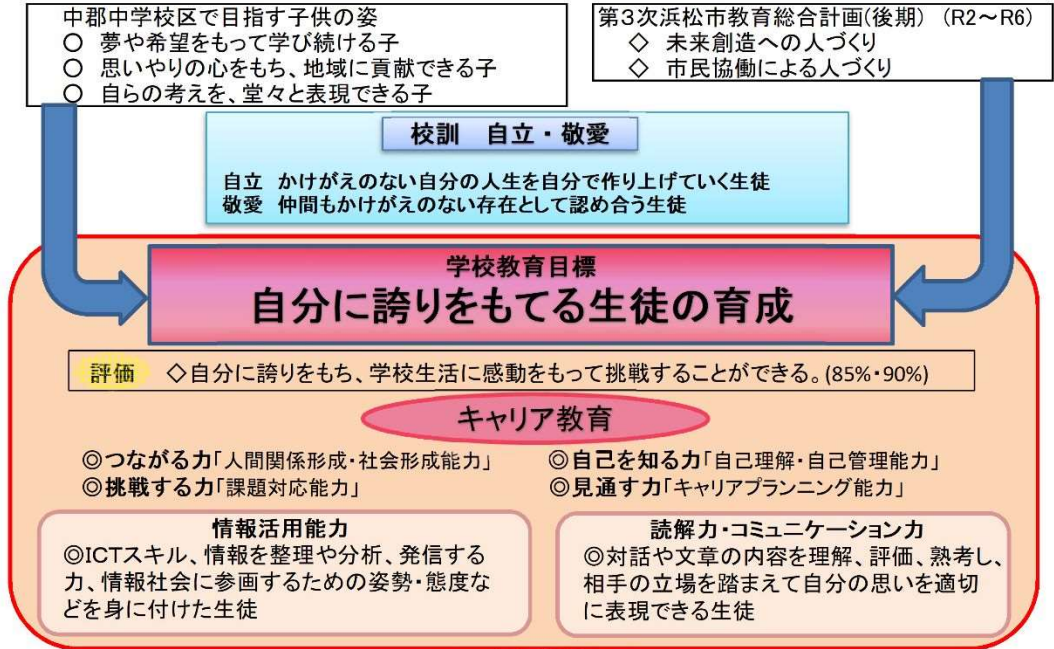
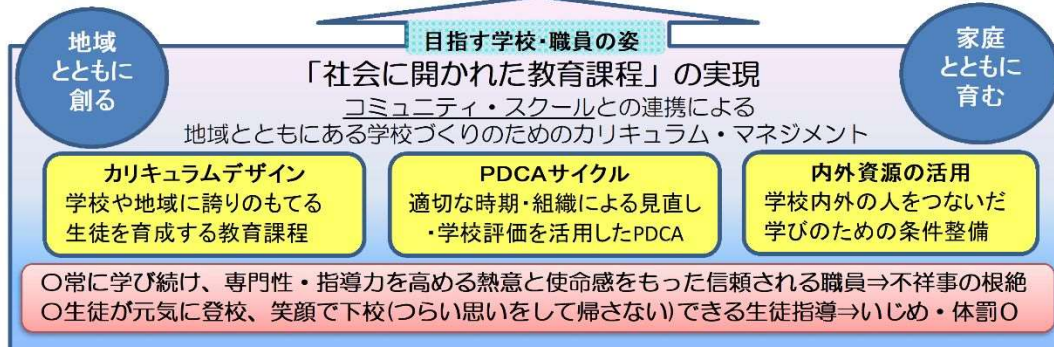


1 中郡中学校グランドデザイン

令和5年度 中郡中学校グランドデザイン



高い知性	豊かな心	健やかな心身
<p>○思いや考えを伝え合い、学び合う生徒</p> <p>◆教科の見方・考え方を踏まえた探究型授業を実践する。</p> <p>〔知〕経験や既習内容と関連付けて知識や技能を身に付ける授業</p> <p>〔思〕対象世界、他者、自己との対話を通し、知識・技能を活用・発揮して学びを深める授業</p> <p>〔学〕自己の学びを振り返り、次時や家庭学習につなげる授業</p>	<p>○自分も仲間もかけがえのない存在として尊重する生徒</p> <p>◆多様性を受け止め他を尊重する資質と自己存在感を培う。</p> <p>〔知〕多様な意見を生かした「考え、議論する道徳」の授業の工夫</p> <p>〔思〕自尊感情と他を尊重する態度を育む生徒会、行事、学級活動を</p> <p>〔学〕社会性を陶冶し大人のふるまいのできる生徒を育成する指導</p>	<p>○健康的な生活を送り、目標に向かって粘り強く取り組む生徒</p> <p>◆可能性に向かって挑戦し続ける健康とたくまさを育む。</p> <p>〔知〕正しい食の知識、食文化を身に付ける食育や健康、安全意識を向上させる学校保健指導</p> <p>〔思〕自他の命を大事にする危機管理意識の育成と防災教育</p> <p>〔学〕手帳を活用したメディア時間の調整、規則的な生活習慣の定着</p>
<p>◇授業中、自分の意見や考えを積極的に発言したり話し合ったりしている。(75%・90%)</p>	<p>◇思いやりや優しさをもって、周囲の人に接することができる。(85%・95%)</p>	<p>◇自分の目標に向かって、あきらめず、粘り強く取り組むことができる。(85%・80%)</p>
<p>◇家庭学習の習慣が身に付き、しっかり取り組むことができる。(75%・65%)</p>	<p>◇自分で考えて、自ら行動することができる。(90%・60%)</p>	<p>◇ゲームやSNS等の使用について、節度やマナー、時間等を守ることができる。(80%・50%)</p>



## 2 自己評価結果

		比較		%					■ 1 とても思う 等      ■ 2 そう思う 等 ■ 3 あまり思わない 等      ■ 4 思わない 等 0      20      40      60      80      100				
				1 とても思う 等	2 そう思う 等	3 あまり思わない 等	4 思わない 等						
1	学校 教育 目標	生徒は、自分に誇りを持ち、 学校生活に感動をもって挑戦 することができる。	生徒	23	58	17	2	生徒					
			保護者	15	64	16	6	保護者					
			職員	10	79	10	0	職員					
2	キャ リア 教育	生徒は、将来に対する夢や希 望、見通しを持って生活する ことができる。	生徒	23	44	29	4	生徒					
			保護者	13	49	34	3	保護者					
			職員	3	59	38	0	職員					
3	規範 意識	生徒は、ルールやマナーを 守って生活できている。	生徒	40	53	6	1	生徒					
			保護者	33	58	8	0	保護者					
			職員	10	79	10	0	職員					
4	礼 儀・ あい さつ	生徒は、友達や先生や地域の 人に自ら進んであいさつがで きている。	生徒	56	36	8	0	生徒					
			保護者	23	64	12	1	保護者					
			職員	24	55	21	0	職員					
5	思い やり	生徒は、思いやりや優しさをも って、周囲の人に接するこ とができる。	生徒	37	57	6	1	生徒					
			保護者	35	61	4	0	保護者					
			職員	24	72	3	0	職員					
6	粘り 強さ	生徒は、自分の目標に向かっ て、様々なことに、あきらめ ず粘り強く取り組むことが できている。	生徒	29	53	17	1	生徒					
			保護者	18	52	27	2	保護者					
			職員	17	52	31	0	職員					
7	自主 自律	生徒は、自分で考えて行動す ることができる。	生徒	30	56	13	1	生徒					
			保護者	19	61	20	1	保護者					
			職員	3	34	62	0	職員					
8	ゲー ム・ SNS	生徒は、ゲームやSNS等の 使用において、節度やマ ナー、時間等を守ることが できている。(職：指導して いる)	生徒	25	50	22	3	生徒					
			保護者	12	32	44	11	保護者					
			職員	21	69	7	3	職員					
9	学習 への 取り 組み	生徒は、学校での学習や授業 を通して、基礎的な知識を身 に付けることができる。	生徒	32	54	13	1	生徒					
			保護者	13	55	23	8	保護者					
			職員	10	76	14	0	職員					

10	言語活動	生徒は、授業中（保：家庭内において）、自分の意見や考えを積極的に発言したり、話し合ったりすることができている。	生徒	24	42	29	4	生徒	
			保護者	29	53	16	2	保護者	
			職員	17	59	24	0	職員	
11	家庭学習	生徒は、家庭学習（宿題など）の習慣が身に付き、しっかり取り組むことができている。	生徒	26	47	23	4	生徒	
			保護者	19	41	29	10	保護者	
			職員	7	28	59	7	職員	
12	読書	生徒は、読書をしている。	生徒	19	27	33	22	生徒	
			保護者	9	21	41	30	保護者	
			職員	7	24	59	10	職員	
13	道徳	生徒は、道徳の授業を通して、よりよい生き方や人との接し方を学ぶことができている。（保：家庭内で道徳の授業について話す）	生徒	39	52	6	2	生徒	
			保護者	4	22	49	26	保護者	
			職員	10	76	14	0	職員	
14	学力を伸ばす努力	学校は、生徒の学力を伸ばす努力をしている。	生徒	40	56	3	1	生徒	
			保護者	7	67	23	3	保護者	
			職員	14	76	7	3	職員	
15	教育相談	先生は生徒や保護者の話を親身になって聞いてくれる。	生徒	44	50	5	2	生徒	
			保護者	17	69	13	1	保護者	
			職員	38	59	3	0	職員	
16	称揚	先生は生徒を励まし、頑張りを認めてくれている。	生徒	41	55	3	1	生徒	
			保護者	17	70	11	2	保護者	
			職員	38	62	0	0	職員	
17	友人関係	生徒は、困った時に相談できる友達はある。	生徒	65	30	3	2	生徒	
			保護者	20	66	11	3	保護者	
			職員	10	90	0	0	職員	
18	学年をこえた人間関係	生徒は、生徒会や行事、部活動等を通して、よい先輩・後輩の関係を築くことができている。	生徒	45	46	7	2	生徒	
			保護者	24	57	15	4	保護者	
			職員	17	79	3	0	職員	

19	協働性	生徒は、集団の活動において、友達と協力したり自発的に取り組んだりして、周りの役に立とうとしている。	生徒	39	49	11	1	生徒	
			保護者	25	60	11	4	保護者	
			職員	24	69	7	0	職員	
20	地域貢献	生徒は、地域の活動（資源物回収や地域防災訓練）に積極的に参加している。	生徒	32	37	24	7	生徒	
			保護者	22	40	25	13	保護者	
			職員	3	59	38	0	職員	
21	部活動等	生徒は、部活動や習い事、検定など授業以外の活動で、自らを成長させることができている。	生徒	46	42	9	3	生徒	
			保護者	30	49	17	4	保護者	
			職員	3	86	10	0	職員	
22	学校行事	生徒は、体育大会や文化発表会などの行事に意欲的に取り組んでいる。	生徒	62	35	2	1	生徒	
			保護者	37	53	5	5	保護者	
			職員	48	52	0	0	職員	
23	健康管理	生徒は、けがや病気をしないように気を付け、健康に生活することができている。	生徒	52	40	6	1	生徒	
			保護者	29	61	8	2	保護者	
			職員	17	76	7	0	職員	
24	生命尊重	生徒は、すべての命を大切にしようとしている。	生徒	63	32	4	1	生徒	
			保護者	42	56	2	0	保護者	
			職員	14	83	3	0	職員	
25	安全管理	生徒は、登下校中や学校生活において、安全に過ごすことができている。	生徒	63	34	2	1	生徒	
			保護者	33	62	3	1	保護者	
			職員	17	83	0	0	職員	
26	ICTの活用	生徒は、情報端末を使ったことで、ICTスキルや情報収集・活用能力を高めることができている。	生徒	35	51	12	2	生徒	
			保護者	16	64	17	3	保護者	
			職員	17	72	10	0	職員	

### 3 考察及び改善方法

#### (1)校訓・学校教育目標について

##### 【考察】

- ・校訓に関わることとして、自分で考えて行動することができていると感じている生徒は86%、目標に向かって様々なことに諦めずに粘り強く取り組んでいると回答した生徒は82%であった。また、94%の生徒が、思いやりや優しさをもって周囲の人と接していると回答し、95%の生徒が困った時に相談できる友達がいると回答した。さらに、先生は生徒や保護者の話を親身になって聞いてくれると回答した生徒は94%、先生は生徒を励まし、頑張りを認めてくれると回答した生徒



は 96%であった。ただし、多くの教職員は、生徒が自分で考えて行動することができているとは感じておらず、実態に対して大きな期待を込めていることが分かる。また、将来に対する夢や希望、見通しを持って生活していると感じている生徒は67%、保護者・教職員も62%程度にとどまり、キャリア教育の観点から、将来を見据えた教育の充実が必要であると考え。

・学校教育目標に関わることとして、81%の生徒が自分に誇りを持ち、学校生活に感動をもって挑戦することができていると感じている。

→生徒は、たくましく、そして良好な他者(生徒同士、家庭、教職員、地域)との関わりの中で学校生活を送ることができていると言える。

→地域の活動に積極的に参加していると回答した生徒は69%にとどまり、ここ数年の感染症拡大防止に関わる制限が影響していると思われる。

#### 【改善方法】

・キャリア教育の4つの力を見つめ直し、より充実したキャリア教育の推進を図る。そしてその4つの力の本質について校内研修等で、教職員が理解を深め、それらを育むための具体的な方策を、各教科の指導に関連付ける。年度当初に各教科の年間指導計画にキャリア教育の視点を明示する。また、キャリアパスポートの活用をこれまで以上に進め、自己の変容を意識しながら、今後の自己の将来への見通しのために役立てる。

・学校運営協議会等を通して地域の豊富な人材を活用し、各分野に詳しい人をゲストティーチャーとして招いたり、地域の施設へ体験活動に出かけたりすることで地域と関わる機会を設ける。

## (2)「高い知性」について

#### 【考察】

・授業を通して基礎的な知識を身に付けていると感じている生徒は86%であるが、自分の意見や考えを積極的に話したりすることができると感じている生徒は66%程度である。

・家庭学習の習慣が身に付いていると考えている生徒は73%であるのに対し、保護者は60%、教職員は35%であった。

・学校は学力を伸ばす努力をしていると感じていると回答した生徒は96%に上った。

→R5年度全国学力学習状況調査の結果、国語、数学、英語の調査対象全ての教科において、本校生徒の正答率が県・全国の平均を上回った。このことから分かる通り、基礎的な内容は身に付いていると言えるが、アンケート結果からは伝え合う力については十分であるとは言えないと感じている。また、生徒の家庭学習への取組みは保護者・教職員にとっては不十分であると映っている。

・情報端末を使用したことで、ICT スキルや情報収集・活用能力を高めることができたと回答した生徒は86%であった。

#### 【改善方法】

・基礎基本の定着に加えて、伝え合う力を育むため、各教科や道徳、総合的な学習の時間を通じて話し合い活動の充実を進める。また、各教科の評価項目にパフォーマンス課題を設定し、経験を積むことにより、表現力を養いたい。また、日頃から話し合い活動を多く設定し、伝え合う力の重要性を生徒に認識させたい。

・R6年度の研修テーマを ICT 機器の効果的な活用推進に定め、校内で研修を進める。具体的な活用方法について教職員で研修を重ね、教職員全体として活用する力を向上させたい。

### (3)「豊かな心」について

#### 【考察】

- ・道徳の授業を通してより良い生き方を学ぶことができていると感じている生徒・教職員は大多数を占めているのに対し、保護者は生徒が家庭で道徳の授業について話さないと感じている。
- 道徳における学習内容を家庭に対して具体的に発信し、共有することが肝要であると思われる。
- ・生徒の読書に関する回答は生徒・保護者・教職員の全てにおいて50%未満である。
- その他の活動との折り合いの中、全体として習慣的に読書の時間を設けることが年々難しくなっている現状だが、豊かな心の涵養には読書は効果的である。
- ・集団生活の中で自らの役割を自覚して活動していると感じている生徒は多く、困った時に相談できる友達がいると回答した生徒も多い。一方で、いじめの認知件数は R5年度も一定数あり、解消へ向けた対応に注意深く取り組んでいる。

#### 【改善方法】

- ・道徳の学習内容に関する掲示物を作成したり、学校・学年・学級便り等で発信したり、通知表の記載内容を工夫したりして、生徒が道徳の授業で学んだことを家庭と共有し、生徒を見守る環境をより良くしたい。
- ・全校一斉に読書の時間を設けることは難しいが、読み聞かせの実施、図書館教育の充実等を通じて読書の魅力を発信する。
- ・「いのちの日」を設定し、前後一週間をいのちの尊さについて学ぶ週として、便りの発行、集会の設定、校内放送の実施を計画する。
- ・いじめの未然防止、早期発見・対応、再発防止のため、年度当初に教職員間の「中郡中いじめ防止基本方針」の徹底周知を行う。また、生徒理解や家庭と協力体制を築くため、生活アンケート(年3回)、三者面談(年2回)等を行う。また、スクールカウンセラーを活用し、希望者が相談できる環境を継続して設ける。またスクールソーシャルワーカーを活用し、関係機関と協力して生徒を見守る環境を整える。

### (4)「健やかな心身」について

#### 【考察】

- ・学校生活や登下校における安全、自他の健康、全てのいのちを大切に思う態度等に関する数値は極めて高く、生徒は安心して学校生活を送ることができていると考えられる。
- ・ゲームや SNS の使い方に関して、マナーや時間を守れていると考えている生徒が75%であるのに対し、保護者は44%と非常に低い。一方で、教職員の90%はこの課題に対する指導を日頃からしていると回答した。学校での表れと家庭での表れに差があることを認識しながら、学校における指導に役立てる必要がある。
- ・生徒のあいさつや規範意識に対する意識は高く、規則正しく節度ある態度で生活できていると言える。また、行事や部活動、生徒会活動への参加も積極的で、これらに一生懸命取り組むのは生徒自ら中郡中の伝統と位置づけている。

#### 【改善方法】

- ・ゲームや SNS 等の使い方に関するマナーや時間を守ることの大切さについて、外部講師を招いて見つめ直す機会を作る。また、学校において ICT 機器のさらなる活用を進めると同時に正しい使い方について日頃から確認していく。

- ・R5年は制服のリニューアルに合わせ、学校生活における服装について、生徒会を中心に議論を重ねてきた。今後も生徒が主体的に学校生活のルール等に時代に合った改善を加えていけるよう、中央委員会や学級運営委員会等を活用して生徒による話し合いの場を設ける。
- ・家庭学習の定着の一つの方策として、生徒用タブレット PC の持ち帰りを進め、学校での学習内容と家庭学習がリンクするよう各教科で工夫する。
- ・幼小中の連携を大切にして、情報交換を定期的(年5回)に行い、効果的な学習計画の中で、校区全体で生徒を見守っていききたい。

#### 4 学校関係者評価

2月20日(火)に開催した学校運営協議会において、自己評価結果、考察及び改善方策について委員に報告した。委員からは以下のような意見があった。

- ・タブレット PC の使い方について、機能を有効活用できるように、協議会として意見を出すようにしたい。
- ・タブレット PC の活用は、楽しさを実感させながら進めたい。
- ・アンケート項目を協議会で改善したものにして効果があったようだ。
- ・時間のない中で親子関係が希薄になっている部分を、地域として状況を円滑に作れるようにしていくことが課題だと感じた。
- ・学校評価の結果に見える、「あまり思わない」「思わない」の項目について CS で取り上げていく課題となっていくと考えられるので、これからできることを考えていきたい。
- ・いじめ問題について報告があったが、件数は多い方なのか。
- ・社会全体で、精神的な不安の中で育てる、育てられているという親子関係がいじめ問題に起因する時代背景ではないか。
- ・ネガティブな気持ち持った子供や悪いことしているつもりもないが、いじめをしてしまう子供にどのように声を掛ければいいのか考える必要がある。
- ・いじめについて、学校が積極的に認知し、じっくり時間をかけて解消まで見守る姿勢であることが分かった。

#### 5 学校関係者評価を受けて

学校関係者評価を基に、以下の点について改善を図る。

- ・学習に関する基礎的な内容の定着についてはこれまで通り学校生活全体を通して努めていく。今後はタブレット PC をはじめとする ICT 機器を効果的に活用し、生徒の思考力や表現力を育成することに役立てたい。タブレット PC の活用方法について校内での研修を積み重ね、指導に生かしていく。
- ・学校運営協議会を通じて地域の資源を学校教育に活用することで地域との関りを深め、子供を見守る環境をより充実させていきたい。
- ・いじめ問題については、未然防止に努めると同時に早期発見・対処を心掛け、学校全体で対応する体制を整える。そのために、職員における「中郡中学校いじめの防止等のための基本的な方針」の涵養に努めていく。